

3D 関西だより

No. 16 2015.1.3

飛び出し Masse!2014 を開きました

2014年12月5日から10日まで、神戸三宮駅近くのギャラリー葉月で3D写真展「飛び出し Masse! 2014」を開きました。今回の写真展には、アナグリフA3プリント38点と3Dテレビによる3Dスライドショーおよび3Dビデオ作品が出品されました。来場者は推定200人を超えました。なかには、通りすがりにポスターを見て入ったという人もいて、神戸市民の芸術への関心の高さをうかがわせました。



アナグリフプリントの展示の様子

今回の写真展には、今話題の4Kテレビ（大林さん所有）が展示され、そのきめの細かさと質感のよさに3D写真が一層すばらしく見えました。4Kはまだテレビ放送も本格的に始まっておらず、価格もまだ高いですが、3D表示装置として使うには格好のものだと思います。例也会も4Kテレビに替えたかどうかという意見もありましたが、一考の値打ちはあります。またきめが細かいので、管面撮影によってカラーズライドを作るのにも使えるなと思いました。



55インチ4Kテレビ

3Dビデオ作品は、だんだん皆さんが腕を上げて来られたので、力作が目白押しです。中村さんの花火、森さんの美山の防火訓練放水シーン、川越さんの古川祭などが、感嘆の声とともに鑑賞されていました。ただ、作品の数が多いので、観客のリクエストに応じてアットランダムに上映されることがあり、上映リストのようなものを作って、まんべんなく上映するのがいいのかなという感じもしました。

新しい試みとして、井上さんの360度3Dパノラマが展示されました。マウスを動かして見る方向を変えたり、ズームアップしたり、上を見たり、下を見たり、いろいろなことができるので、すごく臨場感があります。この方法は今後ますます向上して、3Dの新しい分野になるような感じがしました。

展示作品のなかで話題を呼んだのは、渡辺さん制作の牛井やおでんの本物の容器にアナグリフプリントを貼り付けたもので、これを赤青メガネで見ると、ほんとにそこに湯気を立てている牛井やおでんがあるように見えるのです。たまたま来られていたチラシ関係の企画関係者がこのインパクトのある作品を見てビックリ。早速このアイデアを自社の企画に生かしたいと熱く語っていました。



おでん・牛井・ラーメン「赤青メガネで召し上がれ」

A3アナグリフプリントは、写真展らしい雰囲気をかもし出すのに重要な役割を果たしていますが、今回気づいたのは、一部にゴーストが多くて立体視しにくい写真があることです。原因はプリントのシアンが発色がメガネのシアンと同じでないためだと考えられます。対策としては、もとの3D画像の色をおさえる、明るいバックに被写体がないものを選ぶ、左右のずれを小さくする、プリンターの調整をする、などが考えられますが、今後の研究課題とします。また、画像の調整不足で、縦ずれを起こしている作品がありました。ステレオフォトメーカーを使って簡単に調整する方法を覚えてもらいたいと思います。



アナグリフプリントには、ゴーストが出て、立体視しにくいものがいくつかあった。今後の研究課題だ。